

研究分担者 檜垣 貴哉 岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 助教

研究要旨

難治性副鼻腔炎である、好酸球性副鼻腔炎（ECSRS）について、これまでの研究で臨床スコア（JESREC スコア）および重症度分類が作成された。これらは、広く用いられるようになっている。本研究では、昨年度に引き続き、手術症例について、追加の検討を行うことで症例数や重症度の変化を検討するとともに、適切な治療について検討を行う。また、鑑別を要する疾患および合併する疾患について、症例について検討することで評価を試みた。

A. 研究目的

好酸球性副鼻腔炎の臨床スコア（JESREC スコア）および、重症度分類について、これらの策定後の状況について、疫学研究を行う事を目的とした研究である。

また、症例を収集することにより好酸球性副鼻腔炎の適切な治療・管理について検討を行う事を目的としている。

B. 研究方法

副鼻腔炎手術症例を収集、解析する。手術症例において、各種臨床データを併せて収集した。

症例を電子登録し、他施設で収集されたデータと併せ解析する。

（倫理面への配慮）

代表研究施設である福井大学にて倫理委員会の承認を得た後、分担研究施設である岡山大学の倫理委員会でも承認を得た。

個人情報については個人を特定できる情報を削除し研究に使用した。

C. 研究結果

昨年度までに引き続き分担研究施設である岡山大学において、手術症例の収集・登録を行った

D. 考察

好酸球性副鼻腔炎について、これまでの研究により、診断基準が策定され、診療において有効に活用されている。

一方でその治療方針については、様々な試みがなされているが、未だ統一された見解が得られていない。本研究により、多施設の症例・臨床データを集

約することで、今後の診療における重要な指針となると考えられる。

E. 結論

本研究の分担研究施設である、岡山大学病院において、昨年度に引き続き好酸球性副鼻腔炎を含む副鼻腔炎手術症例を収集した。

F. 健康危険情報

本分担研究において、健康上の問題となるような事案は生じていない。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし